

自家育苗を行う生産者の皆様へ

イネばか苗病の防除対策に ご協力願います



- ・近年、種子を生産しているほ場周辺において、ばか苗病の発生がみられます。
- ・ばか苗病が採種用の水稻に感染し、そこで生産された種子が保菌すると、翌年以降、その種子が感染源となって県内に広く病気を拡大させる恐れがあります。
- ・健全な種子を生産するため、ばか苗病の防除対策にご理解とご協力をお願いします。

【種子から種子への伝染を防ぐために】

- ・JA購入種子と自家採種種子等を、一緒に扱わないようにしましょう（消毒、浸種、保管）。

【ほ場からほ場への伝染を防ぐために】

- ・必ず種子消毒済みの種子を使用して育苗しましょう。
- ・ばか苗病を発見した場合は、すぐに抜き取りましょう。

ばか苗病が発生すると、発生ほ場から周囲のほ場へ、感染が拡大し、発生後の有効な防除方法はありません。

ばか苗病を見つけたときは、JA、普及所、農業試験場等にお知らせください

イネばか苗病の症状

- ・ばか苗病は、種子で伝染する。
- ・発病すると節間、葉が徒長し、茎葉の色は、黄緑色になる。
- ・最終的に、病気にかかった茎は枯死し、表面が白色になる。



苗の徒長



茎の徒長



茎の枯死

ばか苗病を防ぐため、以下のことに注意しましょう

1. 毎年、種子更新しましょう。

○自家採種、県外産の種子は、感染源となるリスクがあります。

2. 種子消毒済みの種子を使用しましょう。



3. ばか苗病が発生した苗株は除去しましょう。

○苗箱で発生した苗は、**すぐに**抜き取りましょう。

○本田で発生した株は、**穂が出るまでに**抜き取りましょう。

○除去した苗・株は育苗場所や本田から離れたところに埋設しましょう。



4. ばか苗病が発生した苗は、**本田に植えない**ようにしましょう。

5. 種子での感染防止に努めましょう（特に温湯消毒種子）。

※温湯消毒は、薬剤消毒と比較して、消毒後の再感染リスクが高いので注意。

1) 種子を保管しているとき

○保管場所の清掃を行い、**清潔な場所**で保管しましょう。

・**稲わら、もみ殻、米ぬか等、前年の残渣**は感染源になる**可能性**があります。

○保管場所が多湿だと、病原菌の増殖リスクが高まります。

○消毒前と消毒後の種もみを、同じところに保管しないでください。

2) 浸種～育苗の作業をするとき

○作業前に作業場内の清掃を行い、**清潔**にしましょう。

・**稲わら、もみ殻、米ぬか等、前年の残渣**は感染源になる**可能性**があります。

○育苗箱・シートは、消毒しておきましょう。

○**J A購入種子とそれ以外の種子（自家採種種子、県外産種子等）を一緒に種子消毒、浸種、催芽をしない**でください。

・自家採種、県外産の種子には、ばか苗病菌が付着している**可能性**があり、感染リスクが高まります。